

基本から学ぶ発達障害

～病気？個性？どちらも違います～

*日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」【承認番号:20210392 承認期間:2022年7月2日～2027年7月1日】

なお、本講座は2ポイント(予定)となります。

*特別支援教育士[S.E.N.S.]、特別支援教育士スーパーバイザー[S.E.N.S-SV]更新ポイント認定講座 S.E.N.S 第23-096号
(2023年度 S.E.N.S 資格更新該当者の申請受付の日程上、2023年度の更新には間に合いません。予めご了承ください。)

期 日：2024年1月13日(土)

受講対象：発達障害児・者に携わる先生方・専門職、行政職、団体職員、ボランティア等

申込期限：2024年1月5日(金) (お申込みは先着順ですが、期限前に募集を終了する場合がございます)

定 員：50名(定員になり次第締切りますので、ホームページなどでご確認ください)

受講料：7,500円(税込み)

配信方法：『Cisco Webex』を使用し、双方向配信 ※事前承認制です

[本講座はオンラインにて当日生配信する講座です。双方向での質疑応答も予定しております。](#)

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

*** <企画および講義> ***

宮本 信也 先生：筑波大学名誉教授

発達障害に対する社会的関心が高まった当初、発達障害は病気であるとか、脳の働きの障害であるとか言われたことがあります。

でも、ちょっと考えてみましょう。例えば、目が不自由という視覚障害、手足が自由に動かせないという運動障害という状態があります。視覚障害、運動障害を生じる病気があることはあります。しかし、視覚障害や運動障害自体は病気でしょうか。そうではありません。

同じように、発達障害も、それを引き起こす病気があることはあります。例えば、脳炎の後に知的障害が残ったり、ある染色体異常では自閉症の状態が見られたりするなどです。しかし、私たちが相談を受ける発達障害のある子どものほとんどは、そうした原因となる病気を持っていません。

では、発達障害は個性でしょうか。個性と言える状態にある人もいるとは思われます。でも、専門機関に相談に来られる人たちは、生活上で自分たちだけではうまく対処できないほどの困難を抱えていることがほとんどです。本人が困っている状態があるのに、それを個性と呼ぶのは適切でしょうか。

「障害」とは、当人が何らかの支援を必要としている状態をいうのであり、支援を必要としている人自体を示す用語ではないと考えます。この講座では、このような視点に立ち、発達障害の基本から対応までを、発達障害を能力問題中心の発達障害と行動問題中心の発達障害という2つのタイプに分ける考え方も含め、解説します。 【宮本 信也】

<プログラム>

時間	テーマ
10:20頃～	オンライン講座の事前案内
10:30～12:00	第1講義：総論・能力問題を主とする発達障害 発達障害とは 知的発達症、コミュニケーション症群、限局性学習症、発達性協調運動症
12:00～13:00	休憩
13:00～14:30	第2講義：行動問題を主とする発達障害 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症
14:40～16:10	第3講義：発達障害への支援 支援が目指すもの・再び発達障害とは
16:20～16:50	質疑応答

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。